

目標を目指して走る (チャペルメッセージ②)

わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。兄弟たち、わたし自身は既に捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。(新約聖書・フィリピの信徒への手紙 3章 12-14 節)

今年もゴールデンウィークの季節となり、本来なら春学期の歩みも本格化してくるところですが、緊急事態宣言が出されるという異常な状況の中で、多くの人が戸惑いと混乱の中にあるように思います。そしてまた、こういう先の見通しの立たない状況の中では、いったい何を目標にして歩いていけばいいのかよくわからないというのが実際のところであるかもしれません。

ところで、今日の聖書の箇所には、勝利を目指して競技場を疾走するランナーの姿が描かれています。今年の夏に東京で開催される予定だったオリンピックは残念ながら来年に延期されることになりましたが、古代ギリシアではすでに紀元前9世紀からいわゆる古代オリンピック大会が行われており、当時の地中海世界の人々にとっては、このような競技者のイメージは馴染み深いものであったようです。そしてここには、「後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、……目標を目指して走る」とあるように、短距離走のレースの状況が描かれています。

この聖書箇所は本来、疾走するランナーの姿を通して、最終的な目標である救いを目指して懸命に歩みを進める信仰者の姿を描こうとしています。しかしその一方で、この聖書の言葉はもう少し広い意味で私たちの日常的な歩みとの関連で理解することも可能であり、まさに目標に向かって思いを集中させて歩いていく姿勢の大切さを訴えかけているようにも思われます。

「わたしは既にそれを得たというわけではない」、「既に捕らえたわけではない」と、ここでは述べられていますが、「自分はまだ目標に到達していない。しかしだからこそ、その目標に到達しようと、今必死の思いで走っているのだ」と語られているのです。私たちもまた「完全な者」になっておらず、まだ完成されていない。もし私たちが、自分たちはすでに完成した、もう目標に到達したと思っているなら、もはや私たちは懸命に走ることはできないでしょう。その意味でも私たちも、自分たちはまだ完成されておらず、なお目標に向かう途上にある、だからこそ、自分たちの目標に向かってひたむきに走って行くのだという思いを持ち続けることが大切であるように思います。事実、目標を失ってしまうと、私たちは誰しも歩みを止めてしまいます。目標を持たずして全力を出し切るなどできないのです。だからこそ、充実した歩みを進めるためには、私たちも常に新たな目標をもって、それに向かって歩み続ける必要があるのです。

今、私たちはそれぞれに不自由な状況におかれています。たとえそうであっても、それぞれの場で新たな目標を設定することは可能であると思います。このような状況にあっても、それぞれが力を尽くして目標を目指して懸命に走って行くことができると願っています。